

# サイエンス・プロジェクトⅢ（3年理型・文型クラス）

## 1 目的

自己と社会の関わり方や進みたい分野の諸課題等を多面的に考察することで、具体的なキャリアプランを設計し、より主体的な進路選択を実現することを目的とした。キャリアプランの作成・発表を通じて、実社会や実生活の中から疑問や課題を見だし、生徒自身が大学進学の意味と意義を明らかにすることを目指した。

## 2 概要

高校3年間の課題研究の集大成として、グループで学問分野別の探究活動を行った上で、発表会を行った。実施計画は以下の通りである（日付は今年度の実施日である）。

<実施計画>全7時間

回	実施日	内容
1	4/23	ガイダンス・班編成
2	4/30	グループ研究①（研究テーマの設定）
3	5/14	グループ研究②（研究分野の調査）
4	5/28	グループ研究③（ミニプレゼンテーション）
5	6/4	グループ研究④（発表準備）
6	6/18	ゼミ内発表会
7	7/2	学年最終成果発表会・振り返り

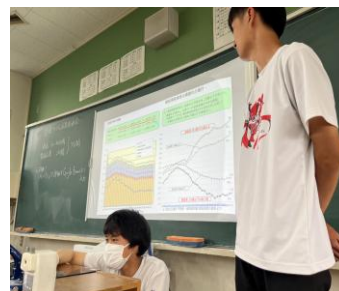
### （1）グループ研究①～④

ガイダンスを経て、個々で作成した「自己探究構想シート」をもとに、「グループ編成」を行った。同系統の学問に興味を持つ生徒2～5人のグループでのやり取りを通じて、大学選びの観点を知らるとともに、社会が直面する諸課題にどのように関わっていくかを調査して、グループ内で考えを深め合った。5月下旬には担当教諭に向けて、進捗状況の確認として「ミニプレゼンテーション」を行った。内容に関する指導助言を得て、ブラッシュアップを図った。その後、発表会へ向けたプレゼンテーション項目と、発表用ルーブリックの評価項目を確認した上で、「発表資料（Googleスライド）」の作成に取り組んだ。

### （2）ゼミ内発表会

作成した発表資料を用いて、ゼミ内で発表を行

った。互いの発表から、大学での学びと将来取り組んでいく社会課題への向き合い方を学び合った。発表内容に関する質疑応答も活発に行われ、学問分野を分析する新たな見方・考え方を得た。発表用ルーブリックを用いた自己評価・他者評価も行い、これまでの研究を振り返った。



### （3）学年最終成果発表会

各ゼミより代表班を選出し、学年で最終成果発表会を行った。文理の枠を超えて研究内容や提言を共有していく中で、視野の深化・拡張へと繋がった。発表会后、取り組み全体を通じて学んだことや気づきを各生徒がレポートにまとめて、提出した。



## 3 成果と課題

生徒レポートには、「多角的な視点でものごとを見ることができた」「大学進学の意味を感じた」「社会課題の深刻さを改めて感じた」のような内容が多く、自身と社会を結び付けてキャリアを考えることができるようになったと考えられる。

一方で、ガイダンスを含めて全7時間しか時間設定ができておらず、発表するには情報量が少ないグループもあった。また、「社会が直面する課題」について、広い視点で見たり、観点を深めたりができていないグループもあった。さらに、グループ活動であるがため、個人レベルでのビジョンの明確化が不十分であったことが挙げられる。改善策として、個人レポート等に適切なフィードバックを行うことで、生徒個人の考えが明確になるようにしていく必要があると考えている。